

仏跡巡礼一人旅 巻2 祇園精舎

平家物語の冒頭に
祇園精舎の鐘の声、 諸行無常の響きあり。
とあります。

本当に祇園精舎には鐘があるのでしょうか。
もしあれば、諸行無常の響きがするのでしょうか。
それを確かめようと、2009年2月17日、祇園精舎へと向かいました。

祇園精舎の正式名称は祇樹給孤独園精舎(ぎじゅぎっこどくおんしょうじゃ)といます。

スタッタ(須達多)という、身寄りのない者を憐れんで食事を給していたため人々から「給孤独者」と呼ばれていた富豪とジェータ太子「祇樹」がお釈迦さまに土地と僧院を寄付したことから、両者の名を冠して、こう呼ばれています。

また、浄土宗で読まれるお経に阿弥陀経(あみだきょう)があり、その冒頭には、

**如是我聞・一時佛在・舍衛國・祇樹給孤独園・
與大比丘衆・千二百五十人俱**

(和訳)次のように、私は聞かせていただいた。
あるとき、釈尊は舍衛國の祇園精舎においでになり、千二百五十人のすぐれた弟子たちと一緒にあった。
とあります。

お釈迦さまは、ここで、23回も雨安居(うあんご)を過ごしています。雨安居とは、雨季に修行僧が一か所に定住して過ごすこと。つまり、合計23年に渡ってここで過ごしたことになります。

現在、祇園精舎の跡は、サヘートと呼ばれ、紀元前5世紀、コーサラ國の首都シューラヴァステー(舍衛城)から500mほど南西にあり、日本人学者の指導により発掘され、静かな公園になっています。

大きな菩提樹がそびえ立ち、発掘されたレンガ造りの僧院の基壇だけがかつての栄華を思い起こします。散策していると、突然、静かさを破るように、犬の吠える音がしました。野犬が、野生の猿の親子を追いかけていて、ここでも犬猿の仲。

また、どこを探しても、鐘は見当たらず、当初の目的は達成出来ませんでした。

駆け足で巡った旅も最終日。ここから、乗合オート三輪30分でバルランプールへ。更に乗合ジープ80分でゴングダ駅へ。2時間遅れの夜行列車14時間でデリーへ。最後に9時間のフライトで帰国の途へ。



2,500年の時を越えて、今なお静かな祇園精舎



僧院の跡で、一人、阿弥陀経を読誦する



祇園精舎から舍衛城へ向かう道すがら、子どもたちが畑で牛と戯れたり、サトウキビをかじっていました。



詳しくは、下記のホームページをご覧ください。



大信寺ホームページ開設

<http://daishinji.net/> または、「大信寺」で検索して下さい。

境内の花々、篠塚伊賀守、インド仏教遺跡巡礼などの記事を掲載しました。



駐車場を準備中

大信寺では、駐車場が境内にあり、しかもお盆などの行事では、手狭になってきました。そこで、山門前の東側の陸田を農地転用申請しました。来年には20台ほどの駐車場にする予定です。

白壁の再塗装

蛭沼在住の同級生のお檀家さんといっしょにカビで汚れた白壁を塗装しました。5月1日に養生し、2日に下塗り、3日に上塗りと、ほとんどを同級生に作業していただき、見違えるようにきれいになりました。

本当に感謝いたします。



境内樹木剪定

6月8～28日のうち14日間、庭師二人に境内の樹木の剪定をお願いしました。お陰さまで、さっぱりとしてお盆が迎えらる準備が整いました。

また、7月3日、南中学校の生徒15名がボランティア活動として、境内清掃を行いました。



仏像ブーム

最近、若い女性に仏像が人気らしいと新聞やテレビで報道されています。特に、国宝阿修羅展は人気で、先日閉幕した東京国立博物館には94万人が入場したそうです。日本美術の展覧会として史上最多。阿修羅の正面の顔がいいのでしょうか。フィギュアも売れているそうです。

5月26日に太田イオンの書店に行きましたら、入口正面に大仏特集のコーナーがあり、仏像の解説書が並べられていました。

若い女性ですから、まず、「かわいい」から興味を持ち、次第に、惹かれて行き、そして、心の安らぎをもとめる、それでいいのでしょうか。

やれ、禅定印だ、来迎印だといった解説書にあるような理屈はいらないと思います。

「この仏さま、いい顔してるなあ」これが、原点でしょう。



施餓鬼会

「施餓鬼会(せがきえ)」「施食会(せじきえ)」などといわれ、各宗派を通じて行われる仏教行事の一つです。

その由来は、経典『救拔焰口餓鬼陀羅尼經(くばつえんくがきだらにきょう)』によるといわれています。

それによると、釈尊の十大弟子の一人である、阿難尊者(あなんそんじゃ)が、ひとりで瞑想している時、口から火を吐く一人の恐ろしい餓鬼が現れ、「お前は3日後に死んで、我々と同じ恐ろしい餓鬼道に落ちる。」と言いました。恐れおののいた阿難尊者が、どうしたらそれを免れることができるかを尋ねたところ、その餓鬼は、「その苦から免れたければ、三宝(仏・法・僧)に供養しなさい。また無数の餓鬼たちに食物を施して供養した功德により餓鬼が救われ、その功德により、お前も救われるだろう。」と答え、姿を消しました。

阿難尊者は、お釈迦さまに教えを請い、寿命を延ばすことのできたという説話にもとづく行事です。

その求めに応じてお釈迦さまが示された修法が施餓鬼会のはじまりとされています。そして餓鬼だけでなく、先祖代々や広く無縁の諸精霊(しょしょうれい)を供養し、また同時にみなさん自身の福德延寿(ふくとくえんじゅ)を願うわけです。

ぜひこの施餓鬼会の機会に、心からお念仏を称(とな)え、自他ともに救われる功德を積んでいただきたいものです。

施餓鬼会は、新亡の霊や先祖代々の諸霊を供養するとともに、無縁仏や餓鬼に施しをする法要であります。さらに日頃の自分自身に巣くう「餓鬼」の心を反省し、自他ともに生かされている身をしっかり受け止め、救われる功德をお互いに積んでいくことが大切なことでもあります。



盂蘭盆

盂蘭盆会(うらぼんえ)は、一般には、「お盆」と言われ、毎年7月13日から16日までの4日間祖先の御霊(みたま)をまつり、その冥福を祈る行事ですが、全国的には一月遅れが多いようです。

その由来は経典「盂蘭盆経」では、梵語(古代インド語)ウランバナの音訳、「逆さまに吊(つる)されるような苦しみ」を除くという意味の行事です。

「盂蘭盆経」によりますと、お釈迦さまの十大弟子の一人で「神通第一」といわれる目連尊者(もくれんそんじゃ)が、ある日、亡くなった自分の母親のことを神通力を使って見ていると、なんと母親は餓鬼の世界に落ちて、逆さ吊りにされ、苦しみにあえいでいました。

これは、自分の子どもは可愛がりましたが、他の人達には、布施や思い遣りを示さなかったためです。

びっくりした目連さまは、お釈迦さまのところへ飛んで行き、どうしたらよいかを相談しました。するとお釈迦さまは、「三ヶ月間の雨季の修行を終えた僧たちが7月15日に集まって反省会を行うから、その人たちにごちそうをして、心から供養しなさい」とおっしゃり、そのとおりにすると、目連さまの母親は餓鬼の苦しみから救われたという故事によります。